

日语学习文选

(第二集)

商务印书馆



日 语 学 习 文 选

(第 二 集)

汪大捷等编

商 务 印 书 馆

1965 年 · 北京

内 容 提 要

本文选是以日语专业二、三年级以上学生,或同等学力
的自修者为对象,以精读为目的的日语辅助读物。本集收有日
本无产阶级文学作品五篇,其中三篇是短篇小说的全文,两篇
是长篇小说的选段。正文采用中日对排方式,以便于对照阅
读。正文后面附有作者作品简介和语法注释,日文正文全部
注有读音。

日 语 学 习 文 选

(第二集)

汪大捷等编

商 务 印 书 馆 出 版

北京复兴门外翠微路

(北京市书刊出版业营业许可证出字第 107 号)

新华书店北京发行所发行 各地新华书店经售

京 华 印 书 局 印 装

统一书号: 9017·585

1965年9月初版

开本 787×1092 1/32

1965年9月北京第一次印刷

字数 90 千字

印张 4 1/16

印数 1—27,050 册

定价(9) 0.44元

《鏡餅》	宮本百合子著 (宋均譯注).....	2
《セメント樽の中の 手紙》	葉山嘉樹著 (刘震宇譯注).....	38
《血の九月》	江馬修著 (汪大捷、孙丹誠譯注)...	54
《豚群》	黒島伝治著 (宁天平譯注).....	78
《党生活者》	小林多喜二著 (尙永清譯注).....	98

鏡

餅

みやもと ゆりこ
宮本百合子著
宋 均 譯 注

- しょうめん しょうめん しょうめん しょうめん しょうめん
正 面のドアを押して入ると、すぐのとしろでたたきの床
へ水をぶちまけ、シュッシュ、シュッシュと洗っている白シャ
ツ、黒ズボンの若い男にぶつかりそうになった。サエは小使
いだとしたらそうではなく、そういう風体でそのへんに
5 ハタキをかけたり、椅子を動かしたり動きまわっているの
は、制服の上衣をぬいだ巡査であった。

大きい包を下げて二階へ上って見ると、ここもまたコン
クリートの床は草履のふみどころもないほど水びしゃびし
やで、特高室のドアがあけはなされてある。

- 10 入って行くと、テーブルの上に脚を空に向けて椅子が積
んである。特高主任は禿げた頭に頬かぶりをし、鼻と口と
を手拭でつつんでいるし、もう一人別な脊の高いのが

「これもとっちゃった方がいいですね」

と云いながらあごを上向け、よごれた指のあとをつけ

3. ぶつかりそうになる——“そうに”是样态助动词“そうだ”的一种連用形。动词連用形后加上“そうになる”的形式，表示“几乎(就要)…”之意。在这句话中从“たたきの床へ水をぶちまけ”到“黒いズボンの”构成“若い男”的定語。

供 糕

推开正面的門剛一进去，几乎和一个穿白衬衣青裤子的小伙子碰在一起。这个人把水泼在洋灰地上，正在刷拉刷拉地刷洗。佐江还以为他是个工友，其实不然，穿着这种打扮、在那里掸东西、搬椅子走来走去的，原来都是脱了制服上衣的警察。

提着大包袱走到楼上一看，这里的洋灰地上也是水淋淋的，連草鞋落脚的地方都沒有；特高室的門大敞着。

走进屋去，只見椅子四脚朝天地摆在桌子上。特高主任用手巾蒙着他那秃头，又用手巾围上鼻子和嘴。另外一个高个子一面說着：

“最好把这个也摘掉。”

一面抬起下巴，唯恐沾上脏手印儿，翘起小指，去摘掉自

-
4. そういう風体で……動きまわっているのは——在这里“の”是形式名詞，它和以上部分合在一起构成主語部分。它的意思在这里相当于“ひと”。
 8. “ほど”在这里是副助詞，表示某种状态的程度。
 9. “……あげ放されてある”是他動詞“あげ放す”的被动式加“てある”的形式，表示存在的状态。
 11. “頬かぶりをする”意为用手巾等“包起头脸”。
 13. “とっちゃった”是“とってしまった”的簡略說法。
 14. “まい”是否定推量助動詞，接四段活用動詞時接終止形，接其他動詞時接未然形。在这里表示否定的意志。

15 いと小指^{こゆび}をピンとはねて自分^{じぶん}のダブルカラーをはずしかけて
ている。特高室^{だれ くれ}の誰も彼も上着^{うわぎ}をぬぎ、チョッキにワイシ
ャツ姿^{すがた}である。

その日は暮^ひの卅^{くれ}一日^{けいさつ}で警察^{しやう}ではどこでもかしこでも正
月^{がつ}の支度^{したく}だった。

20 サエは

「おやおやわるいところへ来た」

そう云いながら、室内^{しつない}に入り

「——どうでしょう——まだ駄目^{だめ}ですか」

もっている風呂敷^{ふろしき}包^{づつ}みを椅子^{いす}の逆^{さか}さにのっているテーブ

25 ルの端^{はし}に置^おいた。

「——本庁^{ほんちやう}へきいて下さい。こっちでやったことじゃない
んだからね。こっちじゃ分らないから——行きましたか」

「こっちできいて駄目^{どき}だという時、私の方^{わたし}でヤイヤ云っ
てもききめがないと思うんです……もう五日^{いつか}も経^たつんだか

30 らいいんじゃないかしら——着物^{きもの}ですからね、口^{くち}を利^きくわ
けじゃないし……」

すると、わきから黒チョッキの男^{おとこ}が

「誰^{たれ}へ差入^{さし}れたいんです？」

ときいた。

35 「石崎^{いしざき}です」

15. “…をはずしかけている”——“かける”在这里可作补助动词看待,表示
“开始”某种动作。

己的衬衣硬領。特高室的每一个人的打扮,都是脫掉上衣,穿着衬衣和西服背心。

这一天是年末的三十一日,警察署里到处都在作过年的准备。

“哎呀!来得不凑巧啊。”

佐江一面說着,走进屋里。

“——怎么样?——还不行嗎?”

她把手里的包袱放在扣着椅子的桌边上。

“——你到总局去問一問吧。因为不是我們这里办的。我們不知道。——去过了嗎?”

“問你們要是說不成的話,我想我怎么嚷嚷也无济于事……。已經五天了,我看差不多可以了。——只是送些衣服,又不是想談話……。”

这时,一个穿黑背心的人从旁問了一句:

“要給誰送东西?”

“給石崎。”

16. “チョッキにワイシャツ”——这里的格助詞“に”表示“添加”或“加上”之意。

18. “暮”在这里意为“年底”“年末”。

26. “じゃ”是“では”的轉音。

29. “ききめがない”意为“无效”“不起作用”。

30. “かしら”是表示怀疑口气的感叹助詞。

30. “くちを利くわけじゃないし……”——“くちを利く”意为“交談”“談話”。“わけ”在这里是形式名詞的用法,表示“情况”。“し”是接續助詞,在这里表示举出一个事实作为代表,言外暗示其他。这种形式一般可譯作“因为又……”。

「本庁へききなさい、本庁がやっていることで、こっちじゃわかりませんよ」

急に^{きゆう}バタバタ、サエの髪^{かみ}の近く^{ちか}でハタキをかけはじめた。
夫^{おつと}の石崎^{けんそく}が検束^{けんそく}されたことを新聞^{しんぶん}でサエがはじめて知^しった
40 のは四日前^{よつかまえ}の夜^{よる}であった。直ぐ^すその晩行^{ばんい}ったが突きかえさ
れ、翌日^{よくじつ}も突きかえされ、これで三度目^{さんどめ}なのであった。

「じゃ一寸^{ちよつと}待^まって下さい」

主任^でが出て行^いった。あとの連中^{れんちゆう}は盛^{さかん}に大掃除^{おおそうじ}をはじめ、
「ヤ、御免^{ごめん}」

45 とか、

「ごみがかかるよ」

とか、コート^きを着^きてそこ^たに立^たっているサエのまわりをわ
ざと邪魔^{じゃま}そうにまわった。

主任^まは間^{かん}もなく帰^{かえ}って来て

50 「どうして、なかなかそれどころ^たじゃないということだ
から、私^{なん}の方^ででは何^でとも出来^きない」

日^ひにこそ見^みえないが両手^{りやうて}で背中^{せなか}を押し出^おされるような風^{ふう}
に、サエは特高室^{しつ}を出^でた。

階段^{かいだん}のおり口^{くち}に窓^{まど}があつて、そこから警^{けい}察^{さつ}の内庭^{うちにわ}と鉄格^{てつこう}
55 子^しのはまった留置場^{りゆうちば}の三つ^{みつ}の窓^{まど}とが見^み下^さろせた。包^ふみを窓^{まど}
わくにのせ、それに胸^{むね}をよせかけてサエはしばらく下^さを眺^{なが}

42. “なのである”和“なのだ”一样,表示强调。“な”是指定助动词“だ”的连体形,“の”是形式名词。

42. “じゃ”等于“では”,在这句话里是接續詞,意为“那么”。

48. “邪魔そうに”——这里的“そうに”也是样态助动词“そうだ”的一种连

“到总局去問問吧，总局办的案子，我們不清楚啊。”

他馬上在佐江的头頂上边用擲子巴嗒巴嗒地擲起来了。佐江是在四天以前的晚間才从报纸上知道丈夫石崎被逮捕的消息的，当晚馬上去打听過，被碰了回来，第二天又被碰了回来，这已經是第三次了。

“那么，你等一下。”

主任出去了。剩下的一伙人就加勁地搞起大扫除来，

“啊！对不起！”

“落一身灰呀！”等等。

人們这样說着，故意在穿着外衣站在那里的佐江身边走来走去，好象嫌她碍事。

主任不大工夫就回来了，他說：

“不簡單哪，他們說早着呢，談不上送东西呢！我們这里确实是毫无办法呀。”

佐江就像被两只无形的手从背后給推了出来似的走出了特高室。

在下楼梯的地方有一个窗子，从那里往下可以看到警察的里院和装有鉄柵栏的拘留所的三个窗戶。佐江把包袱放在窗台上，前胸靠在上面朝下望了許久。里院也充滿了大年三

用形，前接形容動詞的詞干，表示样态。“邪魔”本来是名詞，但后面可以接“な”，所以在这里作形容動詞看待。

50. “どうして”本来是副詞，在这里作感叹詞使用，意为“哪里”“唉呀”。

50. “それどころじゃない”意为“岂止是那样”或“別說是那样”。这里的“どころ”是副助詞，后接否定語气，表示程度。

50. “...ということだ”意为“据說是...”。

52. “目にこそ見えないが”——“こそ”是提示助詞，后面与“が”或“けれども”相呼应时，表示对某事先加以肯定之意，可譯作“固然”。

55. “見下ろせた”是動詞“見下ろす”的可能态“見下ろせる”的过去形。

めていた。内庭も大晦日気分であった。ハッピを着た職人が三四人で何かの空桶に腰かけ、たきびをかこんで、晝休みをしている。上衣をぬいだ白シャツが一人その側に立って

- 60 両手をたきびにかざしている。白エプロンをくるくるとまいて、下からメリンス友禪の派手な前垂を出した辨当屋の女中が、足は紫のコール天足袋だが、頭だけは艶々しい島田で、留置場わきの小使室のところから出て来た。

- 日光は暖く内庭に照って、たきびの焰をすき透らせている。しかし、留置場の鉄格子の前は、ちょうど斜かいに日かげで、窓の横に石炭置場と犬小屋がある。その辺の土は、朝の霜柱もとけきらずに凍っている。

- サエの目は、内庭の暖かそうな日向からいかに寒げな日かげの方へと動き、そこで止って瞬きをするのも忘れたようになった。去年会社で争議が起こった時、事務員であったサエは二カ月留置場へ入れられた。四月であったが、寒さのためにリョーマチがついた。石の壁をとおし、床のうすべりをとおし、日光の射さない檻の中の寒さは専吉の膝の骨までしみとおっているであろう。その凍え工合がサエの肌身に感じられる。――

サエがじっと二階の窓から決して開け事のない留置場の窓に向って目をこらしていると、下の内庭へピカピカ光

61. “友禪”也叫作“友禪染”(ゆうぜんぞめ)。指染有鮮艳彩色的人物、花鳥、草木、山水等花样的布料或印染法。起源于一个名叫宫崎友禪的画匠。

61. “メリンス”也叫作“モスリン”，是一种細軟的薄毛料。

十的气氛。三四个穿着短外褂的工人坐在空木桶上，围着篝火，正在那里午休。一个脱掉上衣露出白衬衫的人站在旁边伸着两只手烤火。一个饭铺送饭的女佣人，把白围裙从底下卷到腰间，下面露出漂亮的花毛纱前裙，从拘留所旁边的工友的屋里走了出来；他脚上虽穿着紫色灯芯绒的布袜子，但头上却梳着油光光的岛田型高髻。

阳光暖融融地照着里院，把篝火的火焰照成透明的。但是，拘留所铁栅栏的前面，恰好斜着在日光的阴影里，窗户旁边有一个堆煤场和狗窝。那附近的地还在冻着，连早晨的霜都没有化透。

佐江的眼睛从里院暖烘烘的太阳地转向冷冰冰的背阴地方，停在那里，似乎连眨眼都忘了。去年公司里发生劳资纠纷的时候，当事务员的佐江在拘留所里被关了两个月。虽然已是四月，却由于寒冷而染上了风湿病。在阳光照射不到的监中，从石头墙，从地板上的薄蓆子透过来的寒气，一定钻进了专吉的膝盖骨吧。佐江可以切身地感到这股冷劲儿。——

当佐江一动不动地从楼上的窗户凝视那些从未打开过的

62. コール天(名)“灯芯绒”之意

64. “岛田”也叫作“岛田髻”(しまだまげ)，是日本妇女的一种梳得很高的发型。

72. “リョーマチ”也写作“リユーマチス”，都是“rheumatism”的译音，“风湿症”之意。

76. “肌身に感じられる”——这里的“られる”是自发动词，表示“不自禁”“不由得”的意思。

77. “目を凝らす”意为“凝视”。

た黒皮のゲートルをまいた背の高い交通巡査が裏の通用門の方から入って来た。

- 80 股をひろげてこっちに顔を向けたきびに手をかざしていたが、やがて腰をかがめて何か二語三語いった。すると、すぐ隣のハッピーの職人が首をあげてサエの立っている窓の方を見上げた。次の一人、又その次、皆順々に顔を動かしてサエの方を見た。真後を向いていた男はわざわざ空箱の上で上体をひねって見た。サエは、そうやって一人一人に仰向いて見られることから、どんな感情も起こらなかった。見上げた方の職人たちも、見あげはしたが誰も何とも云わず、また火の前で手をこすったり、地下たびをパタパタやったりしている。
- 90 なおしばらくそうやっていて、サエは包の上から胸を起こした。ふとうしろをふり向いた。椅子を運び出しながら特高の主任がこっちを見ていた。サエが振向くより前から、そこで窓にむいているサエの後姿を見ていた。それを感じ、サエは包をもって、つと窓際を離れた。階段の方へ三足ばかり歩いた。そしたら鼻の中を急につめたいものが流れた。サエは、下げている重い包のためぎごちない動作でコートの中でたたまっている袂からハンカチーフを出し、音高く鼻をかんだ。それは涙ではなかった。涙であった。
- 95

87. “見あげはしたが”——这里的提示助詞“は”是接在動詞的連用形后面，下面加“する”，用以导致逆态的接續。意为“往上看是看了，但是……”。

88. “…たり…たり”是并列助詞，表示两种动作同时交互存在，意为“或者是…或者是…”，普通后面加“する”。

监房窗户的时候，一个扎着通亮的黑皮裹腿的高个子交警，从后面便门走进里院来了。

他又开腿面向着这边站在篝火旁伸手烤火。过一会儿他弯下腰去说了两三句什么。于是，旁边的穿短外褂的工人马上抬起头来向佐江所在的窗户这边看了一下。接着一个又一个地都转过脸来向佐江这边看。那个背朝这面的人还特意在空箱子上扭过上身来看。佐江虽然被他们这样一个一个地仰脸向上看了，但在感情上，却是非常冷漠的。扬头向上看的这些工人，虽说是向上看了，谁也没有说什么，仍旧在火前搓着手，或者巴嗒巴嗒地踩着胶底丫瓣鞋。

又这样过了一会儿，佐江离开包袱，直起腰来。她无意识地向后一看，看见那位特高主任一面向外搬椅子一面向这边望着。他在佐江转过头来以前，就在那里注视着面对窗户的佐江的背影。佐江感觉到这一点，就提起包袱，立刻离开了窗户。她向楼梯走了三两步。这时候，忽然一股冷冰冰的东西从鼻子里流了出来。佐江因为提着沉重的包袱，用一种拙笨的动作，把叠在外衣袖口中的手帕取出来，大声擤了一下鼻子。那并不是鼻涕，是眼泪。

94. つと(副)“忽然”“突然”之意。主要用于忽然移动身体貌。

94. “窓隙を離れた”——“離れる”是自动词，前面“を”是补格助词，表示动作的起点。

95. ばかり(副助词)接在表示数量的词后，意为“大约”“左右”“上下”。

95. “鼻の中を”——这里的“を”也是表示动作的起点，等于“から”。

96. ぎこちない(形)“笨拙的”“不灵活的”之意。

96. “コート”——在这里指穿在女“和服”上面的外衣。

97. たもと[袂]——指“和服”的袖子，日本的“和服”没有兜，一般把手帕或随身另用物品放在宽大的袖子里。

98. “鼻をかむ”意为“擤鼻涕”。

サエはこのとき、いつかきき^{おほ}覚えていた「口惜しい^{くや}涙は^{なみだ}
100 耳^{みみ}からなりと出るならば」という義太夫^{ぎだゆう}のさわりの文句^{もんく}を、
はっきりと思い出した。そして、口惜しい涙は耳からは出な
い、鼻から出る。サエは強く^{つよ}そう思った。そう思いながら、門^{かど}
松^{まつ}の笹^{ささ}の葉^はがしめかざりといっしょに風にざわめいている
交通のはげしい大晦日^{おうらい}の往来へ出た。

105 夜^{よる}に入^{はい}ってからサエは、佐太郎^{さたろう}の家^{うち}へ行^いってこの年^{とし}を越^こ
き^き気^きになった。

暗^{くら}い梯子^{はしこ}を軋^{きし}ませて二階^{にかい}へあがり、唐紙^{からかみ}をあけたら、火鉢^{ひばち}
をかこんでカリンの机^{しめじん}の前に主人^{しゆじん}の佐太郎^{さたろう}のほかにはサウ子^{さうし}
と進^{すす}などという、会社^{かいしや}の争議^{しやうぎ}でクビをきられた時代からの
110 親^{した}しい仲間^{なかま}がや^やって来^きていた。

佐太郎^{さたろう}は、火鉢^{ひばち}へ炭^{すみ}をついでいるところであつたが、入^い
てゆくサエを見ると、すぐ癖^{くせ}で激^{げき}しくまばたきをしながら、
胸^{むね}をはった坐りようで

「どうしたかね、差入れ^さ、受けつけた？」

115 ときいた。

「まだまだそれどころじゃないってさ」

サエは立^たったまま襟卷^{えりまき}とコート^{こーと}を古風^{こふう}な簞笥^{たんす}の前^{まへ}へ

99. いつか〔何時か〕(副)在这里表示“曾經在什么时候”之意。

100. なりと(副助詞)在这里表示最低限度的希望的口吻,意为“哪怕是……”
“或者是”。

100. “ならば”——可以解释为口語指定助動詞“だ”的假定形“なら”加上接
續助詞“ば”构成的假定条件形式。

佐江这时很清楚地想起了这样一句话：“气愤的眼泪要是能从耳朵流出去该多好啊”。这是她有一次听过的“义大夫”里的一句精采的歌词。现在佐江坚决地认为：气愤的眼泪不能从耳朵流出，倒是从鼻子里流出来。她一面这样想着，就来到了大年三十的交通杂沓的大街上。这里，每家门前装饰新年用的竹叶和稻草绳一起临风作响。

到了夜晚，佐江想要到佐太郎的家里去过年。

嘎吱嘎吱地踩着黑暗的楼梯上了楼，打开隔扇一看，在火盆周围，除了坐在花梨木桌子旁边的主人佐太郎以外，还有佐和子和进等人来到了，他们自从在公司跟资方斗争被开除那时候起一直是很亲密的伙伴。

佐太郎正在往火盆里加炭，看到走进来的佐江，他马上习惯地不住用力眨着眼睛，用挺起胸脯的坐着的姿势问道：

“怎么样了，送东西，收下了吗？”

“说是还差得远呢，谈不上送东西呢。”

佐江站在那里把围巾和外衣脱到老式衣柜前面，边挤进

100. “义大夫”是日本说唱曲艺“净琉璃”的一派，通用三弦琴伴奏，创自元禄年间的“竹本义大夫”，故名。

101. “さわりの文句”特指“义大夫净琉璃”中的“触动人心的精采词句”。

102. “门松”是日本新年时树立在门前作装饰用的松树枝或竹枝。

103. “しめかざり”写作“注连饰”，是新年时挂在门上作装饰用的稻草绳。

105. “夜(よ)に入ってから”意为“到了夜晚之后”。“……てから”表示“……之后”的意思。

107. “唐纸”是日本式房间里两面裱糊的隔扇，也叫作“ふすま”(襖)。

108. “佐太郎”和“进”都是男人名，“サワ子”是女人名。

109. “クビを切られる”意为“被解雇”“被革职”。

111. “か……ところであった”——在这里“ところ”表示时间的位置，意为“正在……的时候”。

116. “……てき”等于“……と言うのさ”。“さ”是感叹助词。“って”可作“终助词”解，相当于“と”或“という”。

ぎ、火鉢^{ひばち}のそばへわりこみながら答^{こた}えた。

「——五日ぐらいすりゃ、大抵^{たいてい}いいもんだがな」

120 洋服^{ようふく}の背中^{せなか}を窓際^{まどぎわ}によせかけ、立^たてた両膝^{りょうひざ}をかかえた
進^{すす}がゆっくり云^いった。

「——正月^{やす}は休^{やす}むからね……その調子^{ちようし}だと七日ぐら^{なのか}い
まで駄目^{だめ}かも知^しれないね」

125 佐太郎^{さくたろう}は組^{ぐみ}合^あい^いの関^{かん}係^{けい}でやられ、今^{いま}は病^び氣^きで保^ほ釈^{しやく}中^{ちゆう}なの
であ^あった。

「おまささんは？」

「正月^{こちそう}の御馳走^{ごちそう}を買^かいに行^いったよ。——豫定^{よてい}よりあまし
て帰^{かえ}れば、それ^{それ}で俺^{おれ}が散髪^{さんぱつ}に行^いけるんだがな」

130 告^{みな}してしゃべ^{しゃべ}っているうちに、サエは丸^{まる}い顔^{かほ}をしかめ足袋^{たび}
のかか^{かか}とを片手^{かたて}でおさえながら

「あんたのところにメンソレない？」

と云^いった。

「どうしたんだね」

「あかぎれがポッポして……」

135 サエは体^{かた}をねじ^{あし}って片足^{かたあし}だけ足袋^{たび}をぬぎ、かか^{かか}とのあか
ぎれへ丁寧^{ていねい}にメンソレ^{メンソレ}タムをぬりこんだ。頬^ほなどの色艶^{いろつや}
のいいサエの顔^{かほ}にあわせ、そのあかぎれは大きくて、痛々^{いたいた}し
かった。

119. “……すりや”是“……すれば”的俗語說法。

119. “大抵いいもんだがな”——“もんだ”是“ものだ”的轉音，“もの”在这里
是形式名詞，表示感叹的語氣。“がな”是終助詞“が”和感叹助詞“な”的